

平成 27 年度中小企業等特許情報分析活用支援事業 特許情報分析報告書

(③審査請求段階)

案件番号： 2015-A01002
利用者名・担当者名： ○×株式会社 殿
報告書作成日： 2015年6月4日
特許情報分析会社名： 中央光学出版株式会社
報告責任者： 中央 光男
報告書作成社名： 中央 光男
受注日： 2015年5月1日
入金確認日： 2015年5月6日
出願番号・優先権主張番号： 特願 2013-000000
出願日・優先日： 2013年5月1日
.発明の名称： タッチパネル
出願人名： 液晶製造株式会社
発明者名： 発明 太郎
代理人名： 代理 次郎

以下ご報告内容

1 調査方法

使用データベース CKS Web
調査期間 1986年1月1日から2013年4月30日
検索式 略

2 観点

- ① ポリエステルフィルムの少なくとも片面に・・積層体
- ② ポリエステルフィルムの両方向平均屈折率が1.50～1.70

3 調査最終詳報

調査は以下の方法で実施した。

調査母集合 件を精査した結果、 件の関連公報を抽出した。

以下では案件比較表（添付資料）で使用した抽出文献について記載する。

① 抽出文献① 特開 2002-000000

名称 反射防止ハードコートシートおよび反射防止偏光板、画像表示装置

本発明は・・

以下略

4. コメント

本願発明の技術内容は、 である。

以上を鑑み、上記観点を開示する特許文献があるかを調査した。

以下略

調査対象: ○×○×○×

No.	①	⑤	⑥	
出願番号	特願2001-269318	特願2006-257058	特願2008-135435	
公開番号	特開2003-075605	特開2008-073999	特開2009-283348	
公開日	平成15年3月12日	平成20年4月3日	平成21年12月3日	
出願人	日東電工株式会社	リケンテクノス株式会社	東洋紡績株式会社	
発明の名称	反射防止ハードコートシートおよび反射防止偏光板、画像表示装置	反射防止フィルム	透明導電性フィルム及びこれを用いたタッチパネル	
【請求項1】	<p>ポリエステルフィルムの少なくとも片面に、易接着層、光学調整層この順で有する積層体であって、</p>	<p>△ 【請求項1】 透明基材フィルム上に、屈折率が1.5～1.7の中屈折率層、屈折率が1.6～1.8の高屈折率層、更に高屈折率層より低い屈折率材料よりなる低屈折率層が、この順に透明基材フィルム側から積層されており、かつ屈折率1.5～1.8の微粒子であって、…。</p> <p>【0020】 …中屈折率層の厚みを1μm以下、さらには50～500nmとするのが好ましい。</p>	<p>○ 【請求項1】 前記基材フィルムとハードコート層との間には、易接着剤層が設けられ、</p>	<p>○ 【0086】 …二軸配向透明PETフィルムからなる基材／硬化物層／高屈折率層／低屈折率層／透明導電性薄膜層からなる積層体を作製し、…。</p>
	<p>該易接着層は、ポリエステル樹脂を易接着層の質量を基準として50質量%以上含有し、屈折率が1.60～1.65であり、厚みが8～30nmである、透明導電性フィルム基材用積層体。</p>	<p>△ 【請求項1】 透明基材フィルム上に、屈折率が1.5～1.7の中屈折率層、屈折率が1.6～1.8の高屈折率層、更に高屈折率層より低い屈折率材料よりなる低屈折率層が、この順に透明基材フィルム側から積層されており、かつ屈折率1.5～1.8の微粒子であって、…。</p> <p>【0024】 透明基材フィルム1としては、例えばポリエチレンテレフタレート、…。</p>	<p>△ 【0047】 易接着剤層として水分散性ポリエステル系樹脂を厚さ10nmで塗布し(屈折率1.58)、</p>	<p>▲ 【0020】 また、硬化物層の厚みは0.1～15μmの範囲であることが好ましい。</p>
【請求項2】	<p>ポリエステルフィルムの面方向平均屈折率が1.60～1.70であり、光学調整層が易接着層側に高屈折率層とその上の低屈折率層とからなり、高屈折率層の屈折率が1.60～1.80であり、低屈折率層の屈折率が1.40～1.60である、請求項1に記載の透明導電性フィルム基材用積層体。</p>	<p>△ 【請求項1】 透明基材フィルム上に、屈折率が1.5～1.7の中屈折率層、屈折率が1.6～1.8の高屈折率層、更に高屈折率層より低い屈折率材料よりなる低屈折率層が、この順に透明基材フィルム側から積層されており、かつ屈折率1.5～1.8の微粒子であって、…。</p> <p>【0024】 透明基材フィルム1としては、例えばポリエチレンテレフタレート、…。</p>	<p>△ 【0047】 厚さ100μmの二軸延伸ポリエチレンテレフタレートフィルム(屈折率1.65)上に、易接着剤層として水分散性ポリエステル系樹脂を厚さ10nmで塗布し(屈折率1.58)、その上にて下記組成のハードコート層形成用塗料を乾燥膜厚2.5μmとなるように塗布し、乾燥した。続いて、…、ハードコート層を形成した(屈折率1.64)。次に、ハードコート層上に、下記組成の低屈折率層形成用塗料Aを乾燥膜厚70nmとなるように塗布し(低屈折率層の屈折率1.39)、…。</p>	<p>△ 【0021】 高屈折率層は、少なくとも低屈折率層(屈折率が1.30～1.60)より高い屈折率を持つ層である。</p>
備考				

注: ○ 開示あり

△ 一部開示、又は関連あり

▲ 参考